

なきごえ

“自然保護特集”



1971

3

大阪市
天王寺動物園協会

日本の鳥の保護

— 芭蕉の句に思う —

黒田 長久

1965年9月25日、利尻島を出た連絡船はうねりを乗越つつ稚内に向っていました。樺太の山が点々と水平線に見えるほど、微風で晴れた午後3時15分、船首で海鳥の観察をしていた私は、はるか左前方、樺太よりずっと西方に大きな鳥の数羽の群を発見しました。海上5mと見えたその群は水面すれすれにぐっと高度を下げ縦に1列に並んで、船の前方を斜めに横切る態勢で接近してきます。それは11羽のヒシクイ(雁)の群でした。そして進む船の前方300m、稚内のノシャップ岬から1kmの沖を一路沿岸に沿って南下して行きました。頸を伸ばしゆるやかに浅いその翼づかいはばらばらで、シベリアからの長途の海上飛行の疲れをはっきりみせているかのようでした(これは渡りで到着する雁の体をしらべてもわかります。)恐らくサロベツ原野を目指し、間もなく着陸して日本の第一夜をむかえるでしょう。

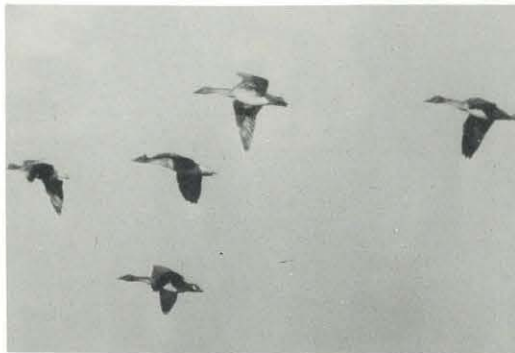
この観察で私は、ヒシクイが樺太を経ずにシベリアから直接北海道に渡来することもあるのを知りましたが、それにも増して、芭蕉が、

今日よりは日本の雁ぞ楽に寝よ

と詠んだ心境が、実感として迫り、最も思い出深い観察として印象に残ったのです。

この句は、重要な意味をもっていると思います。第一に日本に来た雁は安全である。誰もが雁を捕えはしないと呼びかけており、それは当時の事実でもあり、また芭蕉の理想でもあったでしょう。第二には雁は日本のすべての人が保護し、すべての人が楽しむものであるという情愛ある心境が、「日本の雁ぞ」という句に読みとれることです。そしてこの第二の点がとくに重要な意義をもっています。

私は、あるテレビ番組で英国では庭の木でも幹がある一定の太さにまで成長すると、町あるいは国の所有物として登録し、勝手に処分できないという法律があると聞きました。つまり成長した樹木は国や町すなわち国民全部の公有物で、すべての人の楽しむものとなり、その保護が庭の持主に託されるわけです。庭にくる小鳥についても同じです。それは自分だけのものではなく国民全部の「日本の鳥」であり、それを庭や公園で、そして自然で、それぞれの



ヒシクイガンの飛翔 (真下 弘氏撮影)

人が護り、保存し、楽しむという考え方になるわけです。これが、芭蕉の「日本の雁」の心境です。そしてアメリカ人の考え方でもあります。ところが日本では、このような芭蕉の心境にもかかわらず、特殊な動物や大木などを国や県の天然記念物とか町の保存物に指定して公けに護る法律はありますが、民法上個人の庭の鳥や立木は私有物とみなされると聞いています。そして、この考え方が能登半島に渡来するツグミの群が古くから土地の人によって霞網で大量に捕えられ、私有物として食用に売られるという因襲に連らなっただと思われまます。

日本に渡来するツグミは国民全部のもの、すべての人のものだと考えるなら、それは不当なことだといふべきです。

この民法上の考え方が更められない限り、日本の鳥類保護や自然保護にしこりが残り、欧米に遅れをとりつづけるでしょう。そして、国際保護鳥の指定や世界野生生物保護基金(WWF)の企画も、世界の動物は世界のすべての国のすべての人のものという考え方に立つものですから、うへの民法上の考え方を日本がとりつづけるならば、世界に互していくことはできないでしょう。

そこで日本は更めて芭蕉の心境で新時代の鳥類保護、自然保護に乗り出すべき時だと思えます。

(筆者・山階鳥類研究所)

なきごえ3月号もくじ

日本の鳥の保護	2
野生動物の保護について	3
英国の世界一の水鳥保存所を訪ねて	4・5
野鳥を守る(大阪南港の野鳥保護)	6・7
動物園ニュース	7

野生動物の保護について

前 神戸市立王子動物園長

社団法人 日本動物園水族館協会 々友

山本 鎮郎

私たちがすんでいるこの地球の上には、約3000種の獣と9000種の鳥がすんでいます。

しかしながら過去2000年の間に、獣も鳥もそれぞれ、約100種類が絶滅して、地球の上から姿を消してしまいました。どの鳥や獣も、数百万年もかかって、地球上に現われて来た種類なのです。そして現在まだ250種類もの動物が滅亡する危険があるとされています。

一体この様な状態はどうして起ったのでしょうか。その理由は5つあります。

第一に人口が急にふえて来たため、地球の様子が変わったことです。産業技術の発展はいわゆる公害となってあらわれ、空気や土や水がわるくなって、人間よりも先にか弱い動物や魚が生きていられなくなったのです。

2番目には有害な鳥獣を駆除するための農業や銃器のために、かえって無害で有益な鳥獣まで亡ぼしてしまう結果となっていることです。

3番目には、例えばサイ角の様に薬になるといった迷信から、金もうけのために密猟をする人間がアフリカあたりに絶えないことです。単にサイ角だけではなく、大切な動物が装飾や薬用にするために密猟されています。アフリカ等では、象牙を売ってもらうために密猟する者があります。取締りが充分できないためアフリカでは1年間に600頭もの象が殺されているそうです。

4番目には密猟ではないが、スポーツとして狩猟が世界的に普及し、無意味な殺傷をつづけていることです。わが国ではカスミ網猟が禁じられているにもかかわらず、まだどこかで行なわれているようです。

5番目には取締りの法律や監視が不十分なことです。野生動物を保護するには、相当思いきった方策をたてないと、うまく行かない時期が来ています。

動物園は主として野生動物を飼育しています。ほとんどは野生のものを生けどりして来たものです。野生動物を上手に飼育して子を生まれ、それを動物園がお互いに交換することにすれば、野生のものを捕えることは少なくすみます。

もともと自然の状態では当然ふえて来るべき筈が、だんだん数が少なくなって行くということは、根本的には人間が彼らのすみかをおびやかしているからであります。

わが国では徳川時代には相当きびしい取締りが行なわれていて、鳥獣を捕えることを禁じていたためコウノトリやタンチョウが、内地のあちこちで見られ

たのです。明治になってから一時取締りがゆるんだので、目につき易い大な鳥からだんだん姿を消す様になりました。

都会のまん中ではもう鳥やトビも余り見られない様になって来ています。

一度亡びた鳥や獣は、もう2度と私共の手で造り直したりすることはできません。いかに科学や技術が進んでも、1羽の雀も私たちは生み出すことができないのです。

私どもはこれまで随分自然の破壊を行なって来ました。その上まだ宅地や道路の開発で鳥や獣のすみかは減る一方です。こういう時期には、動物園はめづらしい動物を人に見せるという役目以上に、野生の動物を大切に、特に数の少ないものの繁殖に努めることが必要となって来ます。特に野生のままでは農業に汚染したエサを食べたため繁殖が望み得ないというコウノトリのような例もあります。こうした場合はどうしても動物園のような施設でなければ保護はできないでしょう。

世界的に野生動物の宝庫であるといわれているアフリカでも、一部を除いては滅亡のおそれのある動物がいます。これらの動物を保護するためにはたくさんお金がかかります。それでスイスのモルジュという都市に、世界野生動物基金という団体ができていて、各国に支部がおかれお金を集め、情報を交換し、保存の計画と実行を行なっています。わが国では東京の上野動物園の中に、日本委員会がおかれ、元上野動物園長の古賀博士が委員長をしておられ、募金その他の活動を行なっています。

野生動物の保護は、自然全体の保護の中の一つの分野と考えることができます。

野生動物がすめない様な世界は結局人間もすめなくなる世界であります。人間のすみ世界が、鉄とコンクリートの世界だけになってしまったらどうなるのでしょうか。公害に対する戦いは、いかえれば自然保護のための戦いです。私たちが生きるに値する世界にするためには、どうしても自然を取戻さねばならないのです。大都市の緑化推進運動もその一つの手段であり、目的は都会に自然を回復することです。

動物園は都会の中の一つの自然です。自然であるべきです。人間はもともと野生動物と共に生きて来たのです。したがって動物園は人間回復の一つの場所でもあります。

今後の動物園には野生動物の保護施設としての使命と責任が倍加されるでしょう。その意味で読者諸君の一そうのご協力を望みたいものです。

英国の世界一の水鳥保存所を訪ねて

仲田 幸男

英国のグロスター州スリムブリッジ村にある此の水鳥保存所(英名: The Wildfowl Trust) は世界的に有名で、我が国へは最近映画で紹介されていますが、実際訪ねた人は稀れで、筆者が昭和43年11月に此处を訪問した時には、其れ以前、山階芳麿夫妻が訪ねられた以外には皆無でありました。

アムンゼンに僅かおくれて、南極に到達しましたスコットは不幸帰途、不帰の客となったのですが、此のスコットの子孫のピータースコットが1946年にグロスターの船の運河とセバーン河の間の湿地帯の1250エーカー(約500町)の地に設立したものでして1950年にはエリザベス女王をパトロンに迎え、其の夫君エディンバラ公を会長とし、1957年にはピーキルクに分所が出来ました。女王は夫君と共に数回此处を訪問され、又保存所の来訪者の署名簿の巻頭には女王が署名をしておられます。筆者も訪問の際此れに署名を致しました。

各種の稀種の水鳥を極めて好適の土地に飼っている様は誠に水鳥の楽園で、見渡す限り遠く続く緑の芝生、筆者が訪問した秋は紅葉で美しい大木が林をなして散在し、美しい池が展開して、無数の水鳥が泳いでいたり、芝生の上にはいたり、全く感嘆の外はないのですが、然かも此等の水鳥の多くは人間の手から餌を取って食べます。一角には高見櫓があり、頂上から望遠鏡で見ますと、遠くセバーン河の岸辺で餌をあさる野生の渡り鳥が見えます。

世界から集められた雁、鴨、スワン等147種、約3000羽が飼われており、又季節には巣引によって沢山の雛をかえします。1966年を例にとりますと、約100種

の水鳥から1530羽の雛をふ化、且つ育て上げました。

秋から冬にかけて、渡り鳥が此の保存所において、餌を食べます。此の土地の元の所有者パークレー家族が此の渡り鳥の保護を数世紀に亘ってして来たのですが、10月から3月迄ヨーロッパマガンが約5000羽やって来ます。其の他の雁鴨類10種が此处に飛来します。冬にはハクチョウが数百羽飛来して、餌あさりをしますが、此处で非常に面白い其の習性とか社会活動の研究がなされています。ヌマガモは毎年200つがいが巣を作ります。秋には此れが2500羽に増加します。其の他、ヒバリガモ3000羽、コガモ1700羽、オナガガモ500羽、ハシビロガモ400羽、キンクロハジロ200羽、ツクシ鴨100羽、ホシハジロ70羽、オカヨシガモ40羽、其の他の11種類の鴨が飛来記録されております。

此处の土地はセバーン河口で、海水が侵入する湿地と草原で、大部分が潮で上げられた砂と泥で成り立っています。

此处には又、鴨のおとり場があります。おとり場は1843年に設置されたのですが、今日では毎年2000羽以上の鳥が捕獲され、リングをはめて再び放されます。

雁、鴨、スワン以外では6種類のフラミンゴとカンムリサケビドリが飼われていましたが、鶴はいなかった様です。また、ハチドリが飼われ、熱帯鳥のために温室がありました。筆者は朝の10時頃から午後3時半迄、飼育場、標本室、図書室、研究室等を入念に見て廻りました。

1966年に研究所が出来、此の年の4月23日に女王



を迎えて、此の開所式が行われました。研究所には沢山の研究室、図書室、実験室、暗室、博物館があり、又若干の実験用の禽舎も建てられてありました。有能な学者が研究に従事しており、非常に学問的価値の高い年報を発行しております。水鳥の研究者には此の年報が非常に役立つのです。

研究所の重要な目的の一つに水鳥の分布と渡りの研究があります。英国各地におとり場を作り、又ロケット推進網を使って、年間3万羽を超える水鳥を捕獲して、リングを付けて、再び放ちます。又、鳥の食物の研究をしております。死んだ鳥からは標本を作り、又解剖学的な研究をなし、生鳥においては、コートシップディスプレイとか、水鳥の社会的行動、又新しくふ化した雛の行動の研究も行なっています。

此处の研究は鳥類保存事業と直結しております。最も顕著な例はハワイで40羽に迄減少したハワイ雁を、3羽スリムブリッジへ取り寄せ、増殖したのですが、数百羽に増加し、内90羽を原産地のハワイへ送った話はすこぶる有名です。其の他ハワイガモ、ロウバシガン、カモハクチョウ、ナキハクチョウ等絶滅が心配された水鳥を飼育増殖によって数をふや

しました。

又教育の面にも寄与致しております。稀種鳥類の保存事業は大衆の理解なしでは効果を發揮する事は出来ません。保存所では鳥類のカラーフィルムを作り、広く大衆に見せ、テレビジョン、印刷物等によって、鳥類の保存の重要性を説いています。

保存所は利益と云う事を考えない奉仕機関です。会員が支払う会費、寄附、入園料、土産物売場からの売上金等は凡てコレクションの維持、世界中の野生水鳥の保存と其の研究や教育に消費されてしまいます。此处も最初は資本は全然なかったのですが、個人の多くの善意の人々からの援助が出来、又若干の団体からの寄進があるようになりました。名誉理事長兼創設者のピータースコットは保存所から一文の金をも受けず時間とエネルギー、其れに金すら出してしております。今日では多少の余裕も出来、此れは毎年設備の改良に当てられています。又研究については国家の援助も受けられるようになりましたが、依然大部分は外部からの寄進に依存しているようです。

此の保存所を訪ねるには、ロンドンのパデイングトン駅から、急行で1時間半、ストラウド駅に着きます。此处から自動車で約30分で保存所の入口に到着します。ロンドンからストラウド駅迄の途中汽車の車窓から見えるものは、少し起伏のある緑の美しい牧場で、ノンビリした英国の静かな風景が展開し、印象的で、処々には赤瓦の古典建築が緑の芝生に映えて、一幅の絵の様です。筆者は此の保存所の会員なのです。

(筆者、日本雉水鳥協会 理事長)

2月の動物園日記

- 袋の中で大きくなっていくグレーカンガルーの赤ちゃんが1匹、仲間にイタヅラされて死にました。
- フタコブラクダのお産も近くなりましたので分娩室にならしてあります。
- 寒さに弱いヘラサギをスチームの通る室に移してやりました。
- 1月15日に産れたオリックスの赤ちゃんは順調に育っております。
- ワシミミヅクが街のネオンで食欲がおちてしまいましたので、一時他に移して様子を見守って来ましたが元気をとりもどしたので、他の場所にて展示をしています。
- アシカのおす1頭が衰弱死しました。
- 当園のヨーロッパコウノトリは豊岡の野上で人工飼育されているコウノトリの乳母役として豊岡へ出発しました。
- クロカモシカのおすが急性の食滞症で死亡しました。珍らしいクロガモが寄贈されました。
- 11~12、インドから親善使節として当園に寄贈されたラニーひろ子が、急に原因不明の病気で食欲不振や、歩き方が弱々しくなり係員を必配させていましたが、約10日間の手厚い世話の結果、ようやく元気を取りもどし係員をほっとさせました。
- アライグマの赤ちゃんが生まれました。
- 老けこんだエミューを死なせてはと大事をとり電気温熱板を入れてやりました。
- マカロニペンギンが衰弱のため死亡しました。
- ヨーロッパコウノトリが営巣をはじめました。
- コブハクチョウも巣作りをはじめました。

野鳥を守る (大阪南港の野鳥保護)

真下 弘

大阪の自然は年々その姿を大きく変えています。海岸は埋立てられてコンビナートとなり、丘陵を削り水田やため池を埋めてつぎつぎと住宅地が作られていきます。このような自然開発によってそこに住む生物社会のバランスはこわされ、野鳥達はその生存をおびやかされています。

農業と汚水のために餌となる小動物を奪われたカワセミは姿を消し、ツバメも年ごとにその数が減っています。又以前には水田や水辺にたくさん見られたシラサギの姿も今では珍らしくなりました。残された数少ない野鳥の生息地も、開発の波につぎつぎと失われつつあり、南港埋立地もその例外ではありません。

南港埋立地とは大阪市の西南端の大和川河口付近を埋立てた60ヘクタールを越える広大な埋立地で、港湾施設や工場用地を作るために現在工事がすすまられています。

この付近の海岸は古くから「住吉浦」と呼ばれ、水辺の野鳥、とくにシギ・チドリ類の渡来地として、東京湾の新浜、伊勢湾の鍋田、九州の有明海沿岸などと共に野鳥愛好家の間ではよく知られていました。

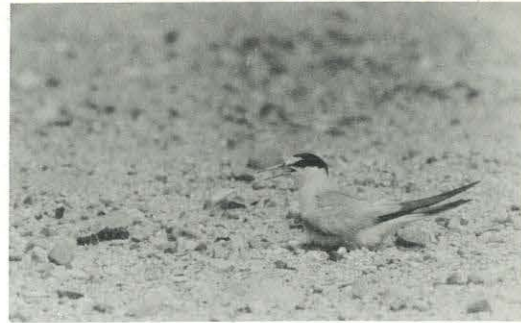
シギ・チドリ類の多くは数千キロにも及ぶ長距離の旅をする渡り鳥で、夏にはシベリアやアラスカのツンドラで巣を作ってヒナを育て、冬には東南アジアに渡って越冬します。日本には毎年春(4~5月)秋(8~9月)の2回、渡りの途中に海岸や干潟を訪れて休息し、又旅立っていきます。

昔の住吉浦の干潟はもう残っていないが、埋立工事のために出来た広い水たまりや泥湿地がシギ・チドリ類の休息場所となり、渡りの最盛期である9月ごろにはトウネン、タカブシギ、キアシシギ、オグロシギなどの千羽をこえる大群が見られます。

南港埋立地ではこの他に北部の砂地でコアジサシ



大阪南港のユリカモメ(真下弘氏撮影)



埋立地で巣を作るコアジサシ

がコロニー(集団繁殖地)を作っており、草原にはヒバリやセッカがすんでいます。又海岸にはウミネコやユリカモメの大群が越冬します。これまでに南港埋立地で記録された野鳥は200種類をこえており、大都会のまん中にこんな野鳥生息地が残されているのは珍しいことです。

しかし、この野鳥の楽園も埋立工事が進むにつれ、あと数年で失われようとしています。大阪付近にこれに代るべき野鳥生息地はないので埋立工事が完成すれば、もう野鳥達は大阪へは渡ってこなくなってしまうでしょう。そこで、南港開発計画の中に野鳥保護施設を配慮してもらい、埋立地の片隅にでも遠来の渡り鳥のための生息地を残してやりたいという野鳥愛好家の願いが集まり、S43年12月に「南港の野鳥を守る会」が結成され、「野鳥自然公園案」が作られました。

「野鳥自然公園案」は南港埋立地の西端に自然公園を作り、そこにはシギ・チドリのための干潟やコアジサシ・シロチドリのための砂礫地、ヒバリ・セッカのための草地、カモ・カイツブリのための池、オオヨシキリ・バンのためのアシ原、など野鳥の生息に適した環境を作り、野鳥の生息地を確保しようという計画です。「守る会」ではこの計画を新聞・テレビ等のマスコミを通じ、又街頭運動によって広く市民に呼びかけ、8300名の賛同署名を得て、関係官庁へ陳情しています。又野鳥に親しんでいただくために観察会を開いたり、カラー絵葉書を作成頒布して

表紙の写真説明

“キンクロハジロ”

ヨーロッパやアジア北部の湖沼や入江にいて、巧みに潜水し、水底の貝類を食べています。写真のは、昨年動物園で自然繁殖したものです。

います。

野鳥自然公園を作るには莫大な費用がかかるのでその実現には多くの困難が予想されますが、なんとかして大都会の中に自然を取り戻したいものです。

「守る会」では南港野鳥自然公園計画と同時に淀川の自然を守る運動もすすめています。淀川は水都大阪のシンボルであり、河川敷には「大阪府の植物」に指定されたアシをはじめ多くの水辺植物のブッシュがあり、150種にもおよぶ野鳥の生息地になっています。

河川敷の大部分はすでにゴルフ場などになってお

動物園ニュース

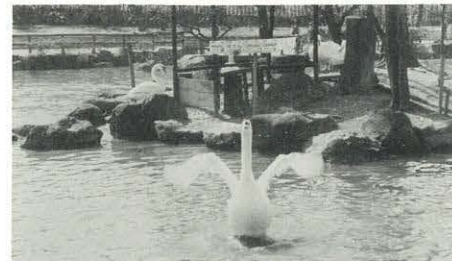
☆春 2景

●うらうらと暖かい春の陽ざしがさしはじめると動物たちものんびり陽ざしを楽しんでいる風景が、そここで見られます。カバの親子ものんびり陸でねています。冬の間は水が冷いので、めったに屋外プールには入りませんが、このごろのように暖かくなると時々プールにも入ります。



カバの赤ちゃんももう1年4カ月たち、かなり大きくなりました。

●3月の声を聞くともう水ぬるむ春です。南園のハクチョウの池では、ハクチョウたちも近づく春を感じてか、動作も活発になってきました。巣作りをはじめめる季節だからです。この池には、現在13羽がいます。今年も、かわいいひなをつれて池の上をスイスイ泳ぐ日ももうすぐです。



り、更に最近この河川敷を公園化することが計画されています。この計画がすすめばアシ原などの古くから残された自然環境はこわされて、野鳥達の生息地も失われてしまいます。昔ながらの大阪の自然の姿を少しでも残したいと考えて淀川流域を調査し、比較的自然的な姿をとどめている地域として高槻市の淀川右岸河川敷に3カ所の地域を選び、現状保存と鳥獣保護区の指定を呼びかけています。

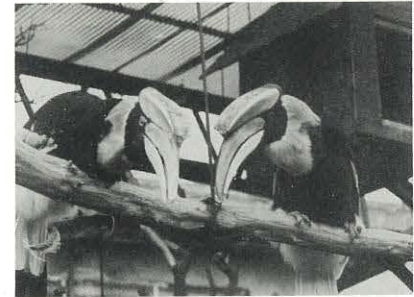
〈南港の野鳥を守る会連絡先〉

箕面市瀬川969 酒井 健 方
南港の野鳥を守る会

☆夫婦仲こまやかなオオサイチョウ

オオサイチョウはニューギニアなどにいる大型の鳥類で、頭の上に大きなとさか状の硬い飾りがあり大きな嘴につづいています。

現在、おす、めす2羽がインドクジャク舎に同居しています。昨年から、夫婦仲がよいので、もしや営巣し卵を産むのではと、巣を天井からつりさげたりして準備をしていました。このごろのように陽気



がよくなってきますと、写真のように、仲よく止り木に止って、嘴を合せたりいろいろ仲のよいところが見られます。今後が楽しみです。

☆ニューデザインのベンチでお休みを!

このほど日本宝くじ協会より入園者サービスのために、新しいデザインのベンチが寄付されました。これはグ



これはグラスファイバー製のカラフルなもので、大きなものは5人がけで15コ、ひょうたん形のが30コで、それぞれ南北の高速道路下において入園の方々に休んでいただいています。

なきごえ 昭和46年3月15日発行 (毎月1回15日発行) 第7巻第3号 (通巻68号)

編集人/加藤寿雄 発行所/社団法人大阪市天王寺動物園協会

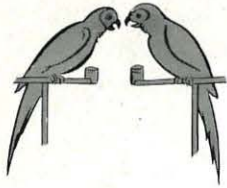
印刷所/株式会社 松村善進堂

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

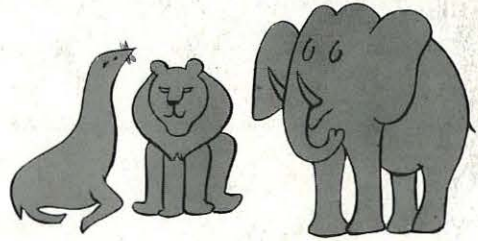
定価 50円



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円